２７　国有林におけるゴミ問題

雫石営林署　○田中　誠
菊地孝和
豊村英之
長岡精一

今、全国的に環境問題が話題となっている、環境問題と一口に言っても自然保護からオゾン層の破壊等、規模や対象は様々である。私たちの職場である国有林の中でも同様の問題がマスコミ等を通して報じられ注目されている。

その様な中で思ったのは、国有林に放置されているゴミの多さである。

環境問題という大きな枠で考えると小さな事かもしれないが、家庭から出る粗大ゴミ山菜・キノコ採りの際に食べた弁当のから、ジュースの空き缶、その他木材生産の際に使用したワイヤーロープ等まで数多く見受けられる。

数年前、ＮＨＫで環境問題を討議する番組があり、その中に営林局の職員も出席していて、「以前林道を車で通ったとき、初老の御夫婦が持っていたゴミの入った袋を林道脇に捨ていってしまったのでびっくりしてしまった。」と語っていた。そんな話を聞いていて、なんて酷いことをするんだろうと思っていたが、自分も空き缶を捨ててきたこともあり自分のことを棚に上げて、人の行為を批判していた事に気がつきとても恥ずかしい気持ちだった。人に言う前に自分がしっかりしなければと思い、それからゴミの問題について考えるようになった。

自然保護、ブナ林をまもれという声は、地元住民からではなく、都市に住んでいる人達の働きかけが大きい気がする。それは今、自分のまわりに自然と呼べるものがなくなり危機感を覚えた人達であって、自分の生活の場に、豊かな森や緑が広がっている所に住んでいる人達ではない。逆に考えると無くなって始めてその大切さ、尊さがわかる。自然を当たり前の存在として毎日を過ごしていると、大切さを忘れてしまいがちになる

空き缶の一つくらい大丈夫だろう、一つや二つでどうにかなる自然ではない、と思う人もいるかもしれない。国有林で働く我々は豊かな自然のなかで仕事をしており、自然を体で感じることが出来ると同時に、えてして自然の大切さ、尊さを、忘れてしまいがちになるのではないだろうか。

何気なく捨てられていくゴミが、捨てて当たり前の状況をつくりだし、ゴミ集積場所と化して、ゴミの山が出来ていく。

だがゴミを捨てることについて、人の家の庭先に空き缶を投げ入れるのは駄目で、森の中だったら許されるのか。それはもう自然を大切に思っているかどうか以前の問題に

も思われる。

平成四年度の養成研修普通科の締めくくり、自由研究発表でもこのゴミに関する問題を取り上げ、森林官として現場に出た際には、ゴミの問題も考えた仕事をしていきたいと発表し、自分のなかで再確認をして森林官となった。

現場へ出てみて、まず想像以上のゴミの多さに驚かされ、何から始めたらいいか迷いながら、ジュースの空き缶は勿論、業務上でてくるスプレー缶の持ち帰りから始めた。また、管内で事業を行っている業者への呼びかけ、ゴミ処理の徹底を指導した。

各営林署において、収穫調査で使用するスプレー缶を回収して、資源の再利用に出しているところはどれくらいあるだろうか、私の経験した署に限っていえば、ほとんどの空になったスプレー缶は、山で捨てられていたように思う。南畑鶯宿森林事務所で使用したスプレー缶は、昨年一年間で約 160本、調査量が少なくなっている近年でこれぐらいだとしたら、今まで毎年これ以上のスプレー缶が山へ捨てられていたことになる、山でスプレーを使用する人は限られており、まして国有林内となれば誰が考えても営林署関係でしかなくなる。

雫石町ではスプレー缶に穴を開けてくれれば、 100kg 300円という料金で引き取ってくれ、ジュース缶と同様にプレスして、廃品回収業者へ渡される仕組みになっている。そこで使用済みスプレー缶を処理するために、簡易穴開け機を作成し、穴を開けてみた18ℓ缶の中に穴開け機を置き、空き缶の噴射口のすぐ脇にとがった鉄棒の先をあてがいうしろから木槌などで叩くという方法だ。慣れるまでは穴を開けると同時に抜き取ってしまい、残っていたスプレー液が飛び散る事もたびたびあったが、穴を開けた状態でガスを抜いてしまうと、飛び散らずきれいに処理できた。今回は 200本程出したが25kg前後で、 100kgとなれば 800本は 300円で処理できることになる。

東京都においては、一般家庭から出る粗大ゴミにおいてもテレビ 400～ 600円、冷蔵庫 600～ 1,000円を回収費用として、ゴミを出す人が支払うという方法で実施されている。一般廃棄物の処理に要する年間費用は、全国で１兆５千億円。市町村一般会計の５～６％を占め、10％を超える町もあるということだ。

ゴミを出すための、 100kg 300円を高いと思うかどうか、林産物収入を得るために使用し、管内市町村のゴミ処理を助けると考えると、決して高い額とは思えない。

森林パトロールというのには、ゴミの不法投棄を取り締まる事も含まれていると思うが、それを取り締まる人間がゴミを捨てていたのでは注意の言葉もでてこないのではないか。一般の入山者を指導するためには自分たちの行動をただし、自信をもっていられるようでなくてはならないと思う。

雫石の状況を見ると、盛岡近郊で自然に親しむために設けられた施設も多く、林道も奥地まで入っていることもあり、登山・ハイキング、山菜・キノコ採り、釣り等で多く

の人達が入山する。しかし、登山道周辺にはほとんどゴミはない、あるのは車で気軽に入ることの出来る林道周辺や、帰りにたくさんの収穫物を担いでくる山である。

また、雫石は峠を越えて隣接市町村へ抜ける国道や県道があり、その峠付近には多くのゴミが散乱している。昨年は、３件の悪質な不法投棄を地元警察の協力をえて取締りを行った。

自分の足で登る登山道にはゴミがなく、車という便利なものを使って行ける所にはゴミが散乱している。この実態を見れば、いかに一人一人の心掛けが大切かが、実感できると思う。

昨年の秋、盛岡市中津川河川敷で行われた木材フェアーの会場で、国有林におけるゴミについてというちょっとしたアンケートをとってみた。60人から回答をいただいたが山やキャンプ場へ行くことはあるかとの問いについては、約半数の人が、よく行く・年に何度か行くと答えた。その目的としては、登山が24％、レクリエーション36％、山菜・きのこ採り40％で、山やキャンプ場でのゴミの状況はどう感じたかでは、散乱している38％、所々みえる55％、あまり感じない７％という結果であった。木材フェアーの会場でのアンケートということで、少なからず山や林業に関心のある人達が多かったと思われるため、全てをこのまま受け取ることは出来ないかもしれないが、殆どの人がゴミの存在を感じているようである。

現在、環境問題、自然保護運動の高まりにより国民が、自然・森林に目を向けている中、森林レクリエーション施設の充実、林道の奥地化等、一般の人達が車で簡単に入ってこられる状況だ。

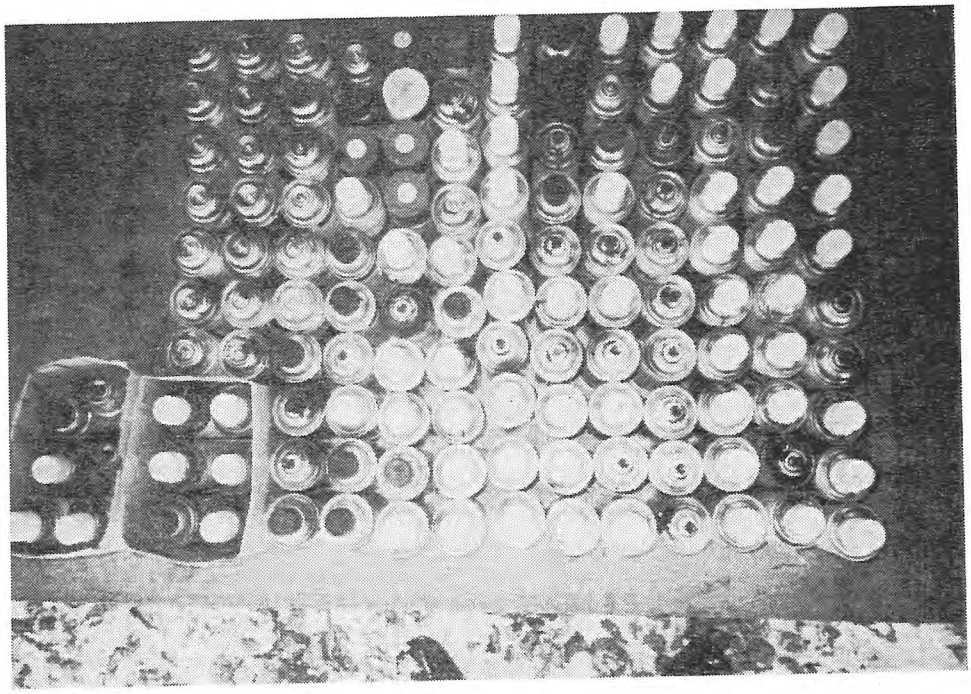
先に世界遺産に登録になった屋久島においても自然保護の要請で林業は制限され、観光への依存を強めれば、ゴミが増え水が汚れるという状況を作り出してるという。同じくして世界遺産に登録された白神山地においても、奥地までは人は入りがたいかもしれないが、ＰＲし観光地化すれば、屋久島と同様手放しで喜んでいられない状況がくるかもしれない。

雫石町でもゴミ処理場が後２、３年でいっぱいになるという話だったが、局管内においても多数の自治体においてゴミ処理場の建設用地が問題となっていると話を聞く、これからは国有林の使用等、国民からの要請も出てくるのではないだろうか。

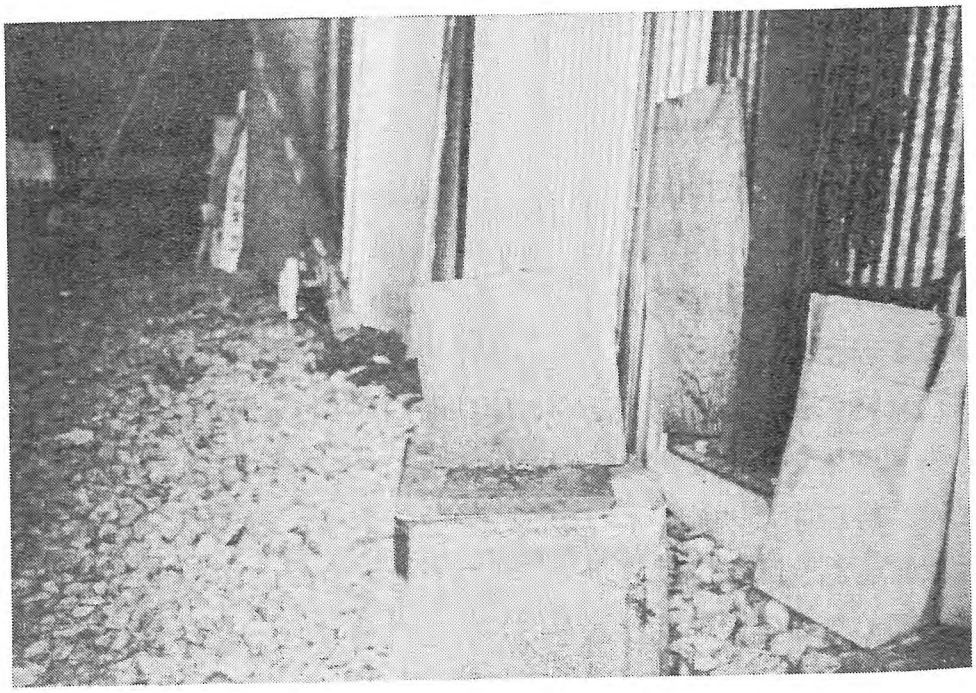
また、一層増えてくるであろう森林レクリエーション施設周辺のゴミ等もふまえて、国有林という枠の中だけでなく、地域と一体となりゴミ問題も流域管理という考えにたち、各自治体と話合いの場、活動の場を持たなくてはならないのではないだろうか。

今年度は初めての年ということもあり、これといった活動は出来なかったが、来年度は手始めにゴミの多い地区での、ＰＲ活動や清掃取締り等、力を入れ町ぐるみで活動できるように働きかけもしていきたいと思う。

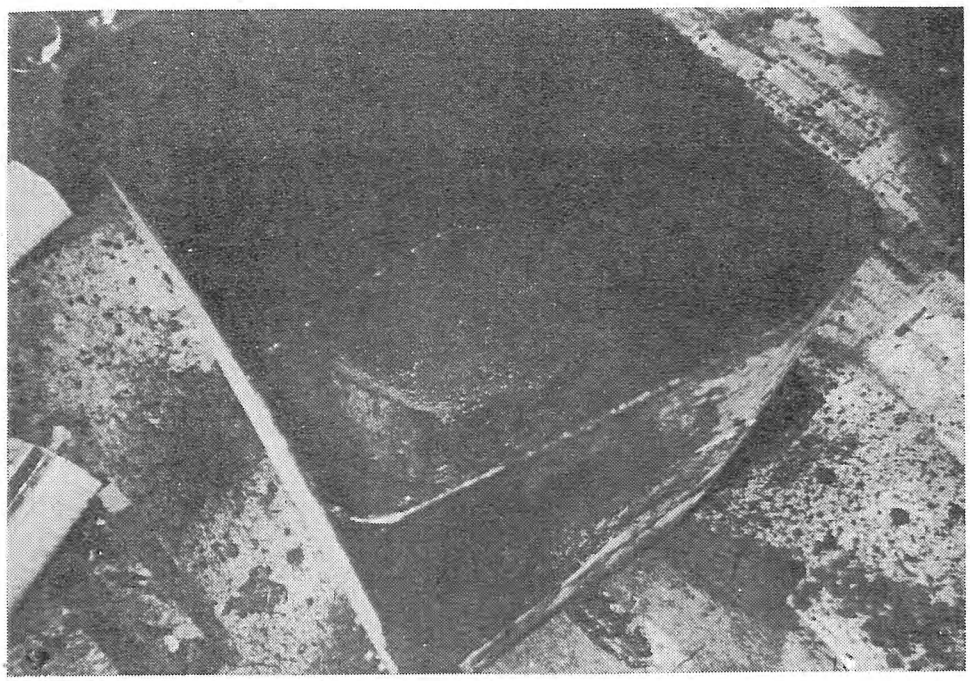
一人ではいくら頑張ってもたかがしれてしまう事だが、一人ひとりの心掛けでずいぶん違ってくるのではないだろうか。



写真－１　昨年一年間で使用したスプレー缶約 160本

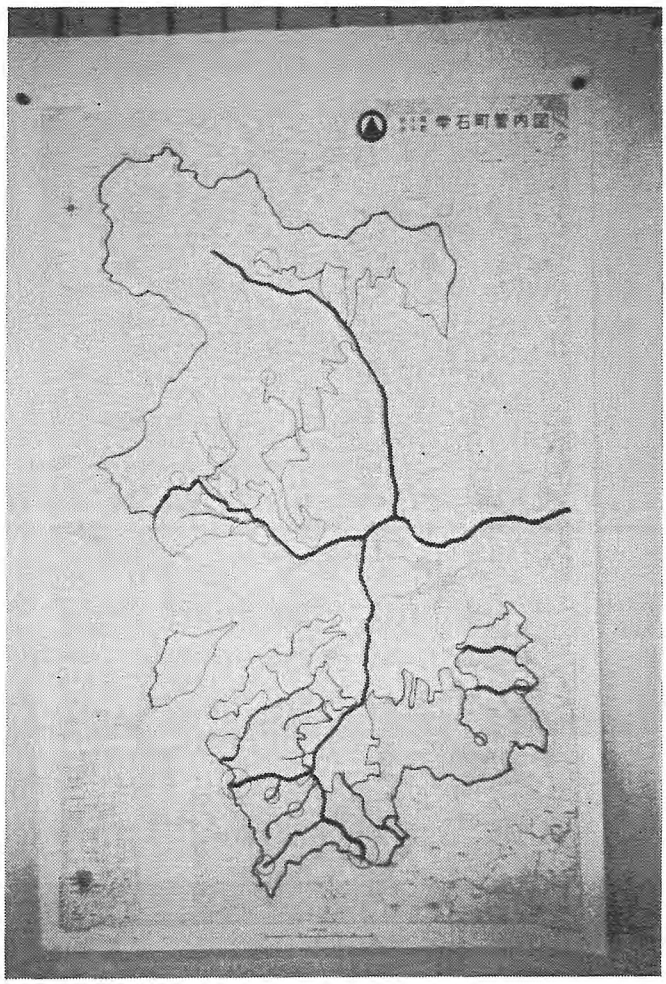


写真－２　簡易穴開け機



写真－３　簡易穴開け機使用状況

写真－４　簡易穴開け機による作業風景



写真－５　雫石地区道路とゴミの分布図

○印がゴミの多い箇所